

## 間質性膀胱炎に対する膀胱内 DMSO 注入療法が保険適応になりました

間質性膀胱炎の症状（膀胱痛、頻尿）を軽減できる治療法のひとつとして、DMSO 膀胱内注入療法があります。このお薬は炎症を抑えるのに有効で、痛みを和らげたり、縮んだ膀胱を緩め、症状を軽くする作用などもあり、すでに北米では間質性膀胱炎治療薬として広く利用されております。日本でも長らく保険適応が待たれていましたが、ようやく 2021 年春にジムソという薬剤名で薬事承認されました。

当院では、いち早くこの治療を開始しており、成績は非常に良好です。間質性膀胱炎の治療として有効性の高い膀胱水圧拡張術や内服薬の効果が不十分である方や、症状の再発をくりかえす方などに、この DMSO 治療をおすすめしています。水圧拡張術は入院が必要ですが、DMSO 注入療法は外来通院での治療となりますので、状況によっては先に DMSO 注入療法を行うこともできます。

具体的に、DMSO 注入療法は外来的に 2 週間に 1 度、計 6 回を 1 コースとして行っています。注入に伴い、膀胱が刺激されることがあるので、あらかじめ局所麻酔液を膀胱内に入れ、鎮痛処置を行ってから薬を注入します。薬は 10-30 分後にトイレで排尿により排出します。副作用として、注入後、にんにく臭が身体から（特に口臭として）発生します。半日程度は会話の際などに気をつけて頂きます。また、数日程度、症状がかえって悪化することがあります（個人差があります）。

有効率は 50-90%程度で、かなりの方に有効です。しかし、しばらくすると症状が再燃することもあります。症状の悪化があれば、適宜、治療を繰り返す必要があります。これまで重い副作用は報告されておらず、安全な治療ですが、診断治療には専門的な知識が必要です。当院には複数の専門医がおりますのでお気軽にお尋ねください。（担当医：飴田要、古野剛史）